

# 作業時のスリップを防止

## モータグレーダに新技術導入

大成ロテック

大成ロテックは、作業の効率化や品質向上を目的としてモータグレーダの作業負荷を調整することでスリップを防止する新システムを、同社関西支社管内で受注した西日本高速道路関西支社和歌山高速道路事務所発注の「阪和自動車道と歌山南スマートインターチェンジ舗装工事」に現場導入したII写真。

情報化施工技術を使用したモータグレーダによる路盤材の敷均し作業では、作業装置を自動制御することで、経験の少ないオペレータでも熟練者並みの仕上げ精度を得ることが可能となり、施工効率が大幅に向上した。以前は、作業装置へ過大な負荷がかかった場合には、オペレータの手動操作により負荷を軽減さ

せ、また走行装置がスリップした場合には、路盤面が荒れ、再度敷均し作

業をする必要があったため、自動制御の使用は、仕上げ敷均しのような比較的負荷の少ない作業が中心となっていた。

今回導入した新システムは、作業装置や走行装置への負荷やタイヤのスリップを検出するためのセンサーを取

り付け、作業中に負荷やスリップの値が設定値以上になった場合に、作業装置を自動で上昇させることで、負荷を軽減しスリップを回避するシステム。

新システムを導入しスリップを防止することで、情報化施工による自動制御作業を連続的に行うことが可能となり、作業効率を更に向上させた。また、施工する計画面を荒すことなく作業することで、品質の確保の一助となった。

同社では、今後も情報化施工技術を活用した施工分野などで継続的技術革新を求め、積極的に最新の装置やシステムを取り入れて、より良い品質の確保や作業の効率化に努めていく。

